

<b>社会福祉法人 高原会</b> <b>佐敷こども園</b>	<b>連絡先</b> <b>TEL:098-947-1875</b>
------------------------------------	---------------------------------------

### 1 実践事項(②)

## タイトル：「自然豊かでわくわく楽しいこども園」

### 2 実践内容

自発的な遊びを通して身近な自然に親しみ、心動かされる豊かな経験を得る

### 3 資料説明

#### 『身近な自然を遊びに活用』

- ・チョウマメやオシロイバナをつんできて、すり鉢、茶こし、ボールなど色々な用具を用いて試行錯誤しながら色を抽出。
- ・抽出した色水を使って「カンパニー」「いらっしゃいませ」とごっこ遊びに展開。
- ・レモンを入れて色が変わったお友だちの話をもとに実験を再現して、色の変化を楽しむ。



#### 『園庭のほうらいかがみにオオゴマダラの幼虫を発見』

- ・「育ててみよう」興味・関心をもって飼育がスタート。
- ・「どうして?なぜ?」元気がない幼虫の姿を見て、様々な予想からいろんな意見が出る。
- ・「お世話当番スタート」元気に育てるためにどうしたらいいか話し合い、お世話当番が始まる。
- ・「大きくなっている」観察から葉っぱを食べる姿や脱皮していることに気づく。
- ・「バイバーイ元気でね」さなぎの羽化を観察し放つことに成功。放った翌週、舞い戻ってきてくれる素敵な出来事を体験。



### 4 成果

- ・自発的な活動が十分に確保されたことで、身近な自然環境に親しむことから始まり、興味・関心をもって色水遊びや飼育観察がスタート。飼育するにあたり、みんなで意見を出し合い協同性や思考力の芽生え、好奇心から探求心へと心情の変化が見られ、また、生命の尊さを感じる豊かな経験が得られた。心動かされた豊かな体験を生活発表会の中で園児の素直な言葉で表現し披露することができた。

### 5 課題

- ・この経験から、身近な自然事象などに、より一層、好奇心や探求心をもって自然に触れて遊ぶようになることを想定し、園児の自発的活動が十分に発揮されるよう、貴重な経験をクラス内だけでなく活動過程から全体で共有できるような環境構成と幼児理解の読み取りを深めるため、RPDCA サイクルに基づいた保育の展開。